

高尾山古墳の追加試掘調査の結果

平成20年度から平成21年度にかけて実施した発掘調査の結果、高尾山古墳は東国では最古級の古墳であることが判明しました。この古墳については、研究者の間で、卑弥呼の墓と云われる箸墓古墳よりも古いと考える説(西暦 230 年頃)と、これとほぼ同じ年代(西暦 250 年頃)と考える説が併存していました。そのため、教育委員会文化振興課では、古墳の構築年代についてのより詳細な資料を得るため、本年5月より試掘調査を開始し、7月中旬に調査が完了しましたので、その結果について報告します。

■ 試掘調査の目的

- ・古墳の年代決定のための根拠を得る。
- ・墳丘内に別の埋葬施設があるかを検証する。

■ 調査期間

- ・平成 26 年 5 月 15 日～7 月 18 日

■ 調査結果

- ・墳丘は、原地形を2メートル近く削平したのち、4メートル以上の盛土・版築によって構築されている。
- ・墳丘内から大量に出土した土器(約 2000 点)に、西暦 230 年より古い年代のものがないことから、墳丘が造られたのは、西暦 230 年頃。
- ・古墳の主体部から出土した遺物から、古墳へ埋葬されたのは、西暦 250 年頃と判断できる。また、主体部から西暦 230 年頃の土器も出土しているが、これは埋葬時に混入した可能性が高い。
- ・別の主体部(埋葬施設)が墳丘内に存在する可能性は少なくなった。



右:墳丘の土層堆積状況

左:墳丘斜面の調査状況



※詳細についての問い合わせ先 : 沼津市文化財センター 池谷信之・小崎晋 TEL952-0844